

1人1台端末を“活かした” 情報活用能力の育成

船橋市立葛飾小学校長 あきもと 秋元 だいすけ 大輔



1 はじめに

本校は明治25年に葛飾尋常小学校として開校した本年度で開校129周年を迎える35学級、児童1,103名の大規模校である。船橋市教育委員会より「国際理解教育」の研究指定を受けており、その一環として、本年度は、1人1台端末を“活かした”情報活用能力の育成に取り組んでいる。本校では、いつ、どの教室へ行っても日常的に1人1台端末を活用している姿が見られる。教員へのアンケートでも、「ほぼ毎日活用していると答える」教員が90%を越える。どのように取り組んできたかその一端を紹介したい。

2 1人1台端末の活用に向けて

昨年度、GIGAスクール構想が前倒しされ、年度末には1人1台端末が導入されることが示された。そこで本校では、夏季休業中にこの分野の第一人者の中川一史教授（放送大学）に、1人1台端末はどのような活用ができるのかを講演していただき、まず先生方に活用のイメージをもってもらった。その後、実技研修、企業が提供しているオンライン研修なども含めて、昨年度末までに計16回のICT関連の研修を実施した。何度も研修を繰り返すことにより、教員の心境も変化し、当初もっていた不安な気持ちから、活用に対する意欲やほのかな自信を感じていただくようになった。3月には、校内でGIGAスクール開きを実施し、1人1台端末の活用が始まった。

3 1人1台端末の日常的な活用

全学級で1人1台端末の日常的な活用を行っている。朝の会では、日直がタブレット端末をもって自分の画面を電子黒板に映して会を進めて行く。会の最後には、自分で作っ

たプレゼンテーションを使ってスピーチを行う。1時間目の前の帯の学習では、タイピングに取り組む。その時間以外にもちょっとした授業の合間（早く課題が終わった時など）に常に取り組むようにしている。また、授業中の情報共有の場面では、児童が記入したノートやワークシートをタブレット端末で撮影して送信し、全員で共有するなど常に活用する場面が見られるようになっている。

4 情報活用能力の育成

情報活用能力の育成は、学習指導要領の総則で学習の基盤となる資質・能力の一つに位置付けられている。しかし、実際にどのように現場で育成していくのか取り組みにくいのが現状である。そこで、中川一史教授らが開発した情報活用能力ベーシック（情報活用能力を五つの学習プロセスにまとめたもの：課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、振り返り・改善）を活用し、教科等の年間指導計画にこの五つの学習プロセスを位置付け、さらに単元の中のどの場面でどのプロセスをどのように育成するのか年間指導計画設定理由表を作成した。本年度からこの計画に基づき情報活用能力の育成を図っている。授業研究会でもこれを意識した学習指導案を作成している。この五つの学習プロセスのそれぞれの場面で1人1台端末が活用されている。例えば「まとめ・表現」でプレゼンテーションを作成するなど1人1台端末を意図的・効果的に活用している。

5 おわりに

各学年別の年間指導計画・設定理由表は、本校Webサイトで公開している。ぜひご覧いただき、皆様の参考になれば幸いである。